



さー！レポートづくりに参加者組織に がんばるぞ 京都自治労連で意思統一

京都自治労連は、5月23日の推進委員会で構成している全単組で一杯自治研集会成功のためにがんばろうと意思統一しました。
全単組でレポートづくりに取り組み、30本のレポートを提出すること。住民のみならずと共に500名で参加しようと、討議資料も作ってそれぞれの組合で方針を具体化することにしています。
住民と自治体労働者の「自治の力」をたかめよう
京都の住民自治の「歴史と伝統」を学び、全国に発信しよう
地域の人と一緒に参加し、成

功させよう
全国の優れた経験に大いに学ぼう
全国からの参加者が思いきり学べる条件づくりのためにがんばろう
それぞれの地域に「まち研」をつくろう
地方財政危機突破、貧困克服のたかみを地域ぐるみで展開しよう
がスローガンです。
「京都で自治研集会を開かせてもらって良かった」と、大きな収穫を持って無事大役を果たせるよう力をあわせてがんばります。



自治体にも後援・協力を要請

現地実行委員会では、集会のことを知ってもらい、後援や協力をお願いしようと京都府内のすべての自治体を訪問しました。
すでに、会場借用の関係もあり、京都市には先行して後援許可をいただいています。地方財政、地方自治の危機的状況の中、自治体に働く者や住民が学習し、自治の力

を付けていくための集会」と紹介するとどの自治体も好意的な受け止め。
後援するかどうかは政治的判断が伴うようですが、膝元の組合の自治研活動などにも資料提供など協力しようと約束いただいたところもありました。



小さくても輝く自治体に感動

長野県下條氏で開催された第11回「全国小さくても輝く自治体フォーラム」に事務局から参加してきました。

今や呼びかけ人となった町村長は52名に上り、国の地方切り捨てにも負けず、住民の力を信じて奮闘している町村の取組と町村長の奮闘には頭が下がります。
それだけに、夕方の交流会もあたたかくて元気で楽しかったです。
そして今回のフォーラムでは、地方の行政と住民のがんばりだけでなく、国策のあり方についても地方から発言していくべきという意見があちこちから出され、アピールにも反映されました。

乙研第1回例会 乙訓の水道問題を聞く

43名参加

大山崎町が不要な水道水を府に押し付けられている問題で府を訴え、今大きな話題となっている「乙訓の水道問題」をテーマにした乙訓地方自治研究会第1回例会は43名が参加しました。
大山崎町の代理人の森川弁護士に訴状の説明を受けた後、水道問題研究家の佐川さんから色々質問に答えていただき、企業誘致を見込んだ当初の計画から問題があったことが明らかになりました。

2月の乙訓自治研集会の「水と緑のまちづくり分科会」から乙訓の水問題へ。
さらに自治研運動は深まっていくようです。



現地分科会だより

映画発祥の地 京都と まちの力

京都は日本映画発祥の地です。地場産業としての映画、かつての蜷川民主府政が映画文化を守るために果たした役割、映画とともに生きてきた町について学びます。東映太秦映画村や、映画で

活性化を図る商店街、映像資料を保存公開している文化博物館を見学します。

東映太秦映画村見学



元東映労組委員長村主哲夫さんのご案内で、東映太秦映画村を見学、映画スタッフとの懇談もします。かつて太秦には東映・大映・松竹の撮影所があり映画関係者がたくさん生活していました。TVの普及と同時に映画産業は斜陽の時代に入ります。大映は倒産、東映は、撮影現場を見学させることで生き残りを図ろうと映画村を作りました。映画のスタッフから映画村のスタッフや売店の店員などへ転身を余儀なくされた人も多かったとか。



昔の映画ファン垂涎もの



映画村では、板東妻三郎さんの「無法松の一生」など昔の映画のダイジェスト版が見られる資料館、監督やスタアの資料もあります。映画好きのあなたはきっとご満足頂けます。

大映通り商店街



今でも大映通り商店街では、時代劇の扮装のまま買い物や食事をする俳優さんに出会うことがあります。不況の中、ご多分にもれず商店街はかつてのような活気はありません。しかし、フィルムを表す舗装やカメラをかたどった看板や照明、「キネマスタンプ」を集めると500円の商品と交換など映画を売りにした企画が。映画を観る会と共同での映画鑑賞や、大学や映画村と共同してのイベントも。

京都文化博物館

京都は日本の映画産業発祥の地であり、日本のハリウッドと呼ばれていました。京都府では、昭和46年(1971)からフィルムライブラリー事業として映像資料の収集・保存を行ってき



ました。現在、京都で製作された作品を中心に古典・名作映画約780作品を所蔵しています。当館では映像文化の研究・振興を目的として、収集してきたフィルムを上映するとともに、ポスター、シナリオなどの映画関係資料を展示しています。映画上映は木曜日から日曜日の週4回、1日2回(13時30分～、17時00分～)行っています。映像ホールの開場は上映開始の30分前です。定員は100名です。満席等の危険が予想される場合は入場をお断りすることがありますのでご了承下さい。(文化博物館HPより)

蜷川知事は、「京都の教育、文化、芸術、宗教と自然を守ります」と公約し、「フィルムライブラリー」事業を立ち上げ、京都でつくられた良い映画フィルムを収集・保存することを実現しました。映画「祇園祭」には、京都府百年記念行事として、映画制作費用の一部を府が出しています。そして、今この映画「祇園祭」のフィルムは文化博物館で保存され、毎年7月に映像ホールで上映されています。残念ながら、分科会で映画を観ることはできませんが、資料をご用意します。また、学芸員の森脇清隆さんのご案内で、映画関係資料の展示を見ていただきます。

町並み保全の規制をようやくはじめた京都市ですが、時すでに遅しの感はいなめなかったのは私だけでしょうか。

移動分科会では、將軍塚を起点に、景観のBefore Afterそして「世界の京都」と誇れる街の姿についてみなさんと検証していきましょう。

分科会の魅力は次号で!



京のまちづくり 新景観政策と 西陣の町家

下見に行ってみました

京都市内一望できる 場所を求めて...

京都は四方を山に囲まれた街です。一望できる場所は数々あれど、車で行けるところが少ないのです。

そこで第一候補の東山「將軍塚」へ下見に行きました。当日と同じ八時半に集合場所を出発、あいにく、少し霞がかかっていましたが、南は伏見から、西は愛宕山、北は船岡山あたりまで見渡せます。下見三人組は久々の將軍塚、一目見ただけでビルが目立ちます。鴨川を捜すのもひと苦労・・・